

# くすのき



岡本小学校 学校だより

No.16

令和4年2月25日

『生き生き学校』



《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

## つながるチーム岡小

子どもの登校時間にあわせて通学路をめぐっていると、季節の移り変わりを感じます。近頃は、狩川で、光沢の深い緑色の頭のカモたちに出会うことが多くなりました。普段はグレーをしているカモの頭が深緑に彩られるのは、求愛行動が始まった証です。もうすぐ、学校も1年のサイクルを終えようとしています。

今年度の学校経営のキーワードは「つながるチーム岡小」です。「つながる」という視点で学校生活を見つめて直してみました。

## つながる～給食を通して～

2月15日(火)の給食時間、5年生児童による英語のスピーチが流れました。

Samosas are from India.  
Shape of a samosas are triangle.  
Potatoes and spice are inside.  
Samosas are a little bit salty.  
Thank you.

この日、「サモサ」という主菜が給食に初登場しました。「サモサ」は、いろいろな立場の方々の思いが繋がり、やっと実現した献立です。

以前、5年生が外国語の学習の中で、いろいろな国調べをした際、外国人指導者のメリンダ先生から、「給食でインド料理を出すことはできませんか？ 子どもたちに外国の料理を知ってもらいたい。」というご相談をいただきました。

毎月の献立を立てている飯田栄養士は「子どもたちの願いをかなえるためなら」と、前向きに検討していただけることになりました。その後、メリンダ先生から調理法が伝授され、調理員さんたちが早速試作品づくりを進めました。ジャガイモをゆでてつぶし、玉ねぎと人参をみじん切りにして炒め、最後はカレー風味にしてあえてから春巻きの皮につつむ(しかも完成形

三角形!)という細かい工程を経て、限られた時間内に800個ものサモサをつくる必要がありました。試行錯誤しながら、短時間で無駄なく失敗なく作業するための手順を考えていただきました。

昨年度から始まった外国語の学習がきっかけとなり、目標に向かう大きなつながりが生まれ、一つの形になりました。このつながりは、互いにとってWIN-WINの関係を生みだしています。



新しいメニューに挑戦する作業自体が、楽しかった。(調理員さん)

私の願い、子どもたちの願いが、みなさんの協力で実現できて、とても嬉しいです。(メリンダ先生)

餃子よりもおいしかった。また食べたい。



思ったよりも緊張しないで、英語のスピーチができました。

## つながる～音楽を通して～

音楽委員会が今年度最後のビッグイベント「ミュージックフェスティバル」を計画しています。

当初は2月の中旬に予定していましたが、まん延防止等重点措置が延長され、子どもたちの活動も十分にできないことから、3月の第1週に動画鑑賞会という形で行うことが決まりました。

「フェスティバル」という名称には、「演奏する人も聴く人もみんな楽しもう」という意味が込められています。この活動をとおして、みんなの一つの目標に向かって取り組むことや、学級の思い出づくりをねらっています。

来週、音楽を通して、全校のみんながつながります。

## つながる～6年生の思い～

6年生が岡小に通うのも、いよいよ20日を切りました。小学校をもうすぐ去る子どもたちは、総合的な学習の時間に「ありがとう 岡本小学校」という活動を進めています。

その中で、改めて岡本小学校を見渡し修理の必要な箇所があることに気づきました。全校のみんなが、さらに安全に楽しく生活するためには何ができるかを考えました。話し合いの結果、プール壁面の絵画の修復、昇降口の掲示物の工夫、下駄箱仕切りの補修、予定用黒板グッズの制作について、チームごとに取り組むことが決まりました。先日この授業の様子を参観させてもらいましたが、どの子も自分事としてとらえ、一生懸命に活動していました。

プールの壁画は、元校長だった杉山孝史先生が6年担任をしていた当時、卒業制作として残したものだと思っています。この時に描かれた絵をそのまま残したい、という子どもたちの発想がとても嬉しいです。当時の6年生の思いが、時を超えて今に受け継がれていくことでしょう。



## つながる～在校生の思い～

今年度もコロナ禍のため、在校生は卒業式に参加することができません。そのため「6年生を送る会」は、在校生にとって6年生との最後のお別れの場となります。

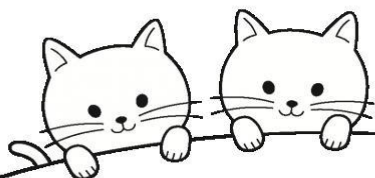
5年生児童がプロジェクトチームを立ち上げ、全員が役割分担をして活動を進めてきました。代表委員会で運営計画について承認を得ようと計画していましたが、相次ぐ学年閉鎖のため、実施が延び延びになっていました。最終的には対面での代表委員会をあきらめ、オンラインでの提案となりました。



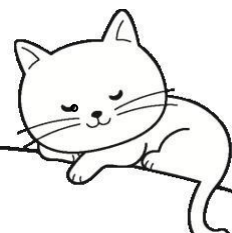
2月18日(金)朝の時間を使い、児童会室から各学級へ生配信を行いました。初の「オンライン代表委員会」でしたが、見事成功。5年生はただ原稿を読むだけではなく、ニュースキャスターさながらに、見えない相手を想像しながら伝える努力をしていました。

「ありがとう」を6年生に伝えたい、在校生の「任せてください」という気持ちも伝えたいという5年生の思いを、今後さらに全校にもつなげていきます。

「ありがとう」を6年生に伝えたい、在校生の「任せてください」という気持ちも伝えたいという5年生の思いを、今後さらに全校にもつなげていきます。



わたしのひとりごと…



冬季オリンピックピックが終わりました。見る人それぞれにいろいろな足跡を残したと思います。

私は、閉会式のあった最終日、羽生結弦選手によるエキシビジョンにとっても感動しました。フリー4回転の失敗を引きずっているかと思いきや、そんなことは全く感じさせず、エキシビジョンの途中では氷上にキスをする場面すらありました。「本当にスケートが好きなのだな」ということが伝わり、見ているこちらまで幸せな気持ちになりました。

英語で「幸福」のことをHappinessと言いますが、この『Top』というのはHappening(ハプニング)の『Top』と同じ『偶然』を意味するのだという話を、以前聞いたことがあります。つまり、幸せもハプニングも、『偶然』起こるものだという事です。

試合後に「努力は報われない」と言っていた羽生選手にとって、今回のオリンピックピックは、まさに幸せとハプニングが隣合わせだったのでしょうか。

「努力は報われない」という言葉は、私にはとても重い言葉でした。なぜなら、日々教育に携わる私たちは、子どもたちに「努力は大切。努力は必ず報われる」ということを伝えていくからです。

失敗した、努力が報われなかった、でも心からスケートを楽しんでいる…そんな羽生選手の姿から、「たとえ今失敗しても、たとえ今努力が報われなくても、人生は楽しめる。また次がある。」という大きな勇気をもらいました。

幸せもハプニングも『偶然』起こるものです。「偶然」起こるものに対して過度に心が揺さぶられないよう、失敗を悲しむ子どもに対してはこんな言葉をかけてあげようと思います。

「努力が報われなかったとしてもそれは偶然であって、努力した事実は君の尊い財産だよ」と。